

「若いもんで馬木のことを何でもしゃべろうや

そんで、馬木をにぎやかにしていこうや」

—地域の未来を担う若者の人づくり—

奥出雲町 馬木公民館

## 1 馬木地区の概要

馬木地区は、仁多郡奥出雲町の最南端で島根県と広島県の県境に位置し、世帯数412世帯、10自治会からなる。人口約1200人足らずの農山村地域である。

馬木地区も高齢化が顕著に表れており、高齢化率は45.5%、75歳以上の一人暮らし及び二人暮らしの高齢者宅が20%という状況である。

地区内には、小学校が1校、幼稚園が1園あり、地域との結びつきも強く、地域を挙げて教育活動に取り組んでいる。

## 2 事業の趣旨

馬木地区にも少子高齢化の波が押し寄せている現状で、若者が少ないのはこの地域も同じである。今一度、馬木の地に若者を中心に、活力を取り戻そうということで、この事業に取り組むことにした。若者の姿が地域の中で見え、若者が活躍する場で地域住民との関わりを深め、馬木をにぎやかにしていくことを、地域住民も望んでいるように感じている。

今後は、若者が集う“しゃべろう会”で馬木の地域を見直し、活性化するためには何が必要なのかなどいろいろな角度から話し合いが行われることが望まれる。そして、しゃべろう会で、何かをしたいという活動（アクション）に結びつくことを期待している。今まで閉ざされていた夏の盆踊りをこじ開けることにつながればいいなと考えている。そのためにも若者が、気兼ねなく集い、気軽に何でもしゃべり合う雰囲気づくり、場づくり、人づくりをしたい。

## 3 具体的な取組内容

(1) 若いもん会設立世話人会

自治会長会から若いもん会を作ったらという後押しもあり、数人で世話人会を立ち上げ、設立のための話し合いを行った。

- ・設立会までのスケジュール
- ・メンバーの確保、声かけ方法
- ・若いもん会の趣旨、目的、内容、名称

### (2) 若いもん会設立会

世話人会を中心に、知り合いの若者に声かけをして、趣旨や目的などを話し、賛同を得た10人で若いもん会を立ち上げた。

会の名称は、「馬木若者会のんじゃらーず」で、基本的に月1回程度、定期的に会を行い親睦を図る。とにかく楽しく束縛されない、何でも言い合える会にしようという共通認識で一致した。初回ののんじゃらーずの会は親睦会を行い、仲間意識を持たせた。

### (3) 具体的な事業実施

#### ○定例会の開催

9月頃になるとメンバーも20数名になり、定例会の参加者も月を重ねるごとに増えてきた。定例会では、役員、チーム意識を高めるためのポロシャツのデザイン、今後の具体的な活動内容等について検討した。

#### ○“活動の場”の提供

各種団体や地域住民と連携を図りながらのんじゃらーずの活動経験を高める場として下記の活動を公民館が提案し、実施した。

- ・地域団体から依頼のあった馬木忠魂碑及び周辺の草刈り
- ・馬木地区文化祭のバザー出店

バザーの内容についてメンバーで検討し、タピオカドリンクと焼きそばを販売した。無事完売し、今後の活動資金を得た。



(文化祭でのバザー出店)

#### ・海ひこ、山ひこ家族間交流会

松江市島根町加賀地区と交流を行っており、昨年は、馬木地区でそば打ち体験やリンゴ狩りをとおして、加賀地区の若者家族会と交流し、また地域のよさを再確認した。

#### ・馬木コミセンの掃除&忘年会の実施

##### ○交流会・研修会の実施

交流会や研修会を通じて、のんじゃらーずのメンバーが知識や見識を深めながら、今後の活動の参考にしたり、あるべき姿を探っていくことを目的に実施した。

#### ・松江市生馬公民館の若者会（若馬会）との交流・研修会

同じような活動をしている若馬会と交流をすることにより、情報交換をしてお互い刺激を受けながら今後の活動に向けてモチベーションを上げた。

#### ・地域の活性化のために活動をしている地域団体の代表を講師に招いた研修会の実施



(研修会後の講師と懇親会)

##### ○のんじゃらーず主催事業

#### ・家族スリッパ卓球大会の実施

のんじゃらーず初めての企画事業である。活動を通じて、メンバーは楽しみながら、つながりをより一層深め、さらにメンバーの家族との交流も行いながら、更なる団結を確かなものにした。

#### ☆事業実施後の振り返り

事業の実施後は、活動を振り返ることを大切にしており、メンバー全員でライングループを作り、事業を実施したことの感想や気付いたことなどをラインで共有し、次回の事業に生かし、計画、実践、反省のサイクルで行っている。

#### ☆各活動終了後には懇親会の実施

メンバー同士のつながりを強めるとともに、ざっくばらんに話をし、今後の活動のヒントを得る。

## 4 評価と成果

### (1) 若者会の組織化

年代の相違はあるものの、馬木を賑やかに活力のある郷にしようという気持ちを持った若者の賛同者が徐々に増えていき、若者会の組織が確立した。

### (2) 活動はメンバー全員で

活動の大まかな内容は全員で決め、具体的な実践については、役員で検討し案を立て、メンバーにラインで情報共有している。その上で、当日は参加できるメンバーで運営する形ができた。

### (3) 世代を越えた新たなつながり

様々な活動を経験する中で、年齢にとらわれず個々の意見を遠慮なく出し合ったり、それぞれの立場で協力したりする姿が見られるようになった。世代を越えた新たなつながりが生まれた。

## 5 今後の課題と見通し

### (1) メンバーの主体性を育む

今年度は特に、若者を中心とした組織づくりに重点を置き、のんじゃらーずが誕生したが、自主的な活動は少なく、リーダーを中心とした動きに留まっていた。今後は、のんじゃらーず独自の事業を展開していく中で、一人ひとりの関わりや活躍の場を増やしメンバー個々の主体性を育てていく。

### (2) 地域とのつながり強化

現在は単独での事業が多く、のんじゃらーず中心で動いているが、今後は地区全体へ活動の場を広げていくことが期待される。地区内の各種団体との連携し、「馬木を賑やかに活力のある郷に」という思いを共有し、共に活動していくことで、のんじゃらーずだけでなく地区内の団体も元気になる。そのために公民館は、若者の思いを大事にしたつなぎ、活動のバックアップなどの役割を果たしていく。

(文責:館長 若月 薫)